２０１３年　３月１４日

公益財団法人　笹川記念保健協力財団
理事長　紀　伊　國　献　三　殿

施 設 名　公益財団法人筑波メディカルセンター
筑波メディカルセンター病院

代 表 者　公益財団法人筑波メディカルセンター
代表理事　中田　義隆

２０１２年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１．研究・研修事業　　２０１２年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業

２．期　　間　　２０１２年　４月　１日　～　２０１３年　３月３１日

３．報　告　書　　Ⅰ　事業の目的・方法

Ⅱ　内容・実施経過

Ⅲ　成果
（上記Ⅰ～ⅢをＡ４縦・横書　6，000字程度にまとめる）

Ⅳ　収支報告
①助成金の使途（人件費以外は領収書等の証憑書類を添付）
②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
（貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可）
※決算期の関係で２０１３年３月１８日（月）までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
（提出予定日　２０１３年　５月　３１　日）

Ⅴ　研修修了者報告書

以上

平成２４年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業

筑波メディカルセンター病院　緩和医療科
診療科長　久永貴之
診療部長　志真泰夫

Ⅰ.事業の目的・方法

1）目的

本研究事業の緩和ケア専門研修においては、筑波メディカルセンター病院（以下、当院とする）での緩和ケア病棟における専門的緩和ケア研修を行う計画である。また当院緩和ケア病棟では積極的な地域医療機関・専門外来・緩和ケアチームとの連携を進めており、緩和ケアに必要不可欠な連携についても研修が可能である。

これらの研修を通じて１年間で緩和医療専門医として必要な知識・技能の習得を目指すことを目的とする。

2）方法

萩原信悟医師（以下萩原医師）は平成１４年から独協医科大学に入局し、消化器外科の研鑽を積み、平成２１年１０月より独協医科大学日光医療センター消化器外科に勤務し、学位と外科専門医を取得した。これまでに多くの進行・終末期がん患者の診療に当たってきたが、その過程において、がん患者の医療を行っていく上での緩和医療の必要性を強く感じていた。そのため当院での質の高い緩和医療に関する研修を行いたいとの希望があり、貴財団の「ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業」に応募した。

萩原医師の専門フェローシップ研修の具体的目標として、緩和医療の幅広い臨床能力を身に付けることとした。研修年限は１年間とした。

3）具体的な研修計画

○緩和ケア病棟研修

緩和ケア病棟における急性期の入院患者を対象として専門的な症状マネジメントやチームアプローチについて研修を行い、緩和ケア病棟における診療を会得することを目的とする。

さらに退院前カンファレンスや地域カンファレンスなどへ積極的に参加することで、地域や外来との連携について研修を行うことを目的とする。

Ⅱ.研究事業内容・実施経過（資料参照）

○　平成２４年４月１日～平成２５年３月３１日（筑波メディカルセンター病院緩和医

療科）

萩原医師は筑波メディカルセンター病院に緩和医療科専門研修フェローとして勤務し、緩和ケア病棟の病棟医として、実際の臨床を研修した。指導医の下でおよそ６０例のがん患者を担当し、専門的な緩和医療を経験することができた。

また、今年度行われた日本緩和医療学会主催「緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会」を受講し、指導者研修を修了した。平成２５年３月１０日と２４日に行われた当院およびつくば市医師会主催の研修会に於いて講師およびファシリテーターとして研修会に参加し、診療所医師や病院医師、看護師等への基本的な緩和ケアに関する教育経験を持つことができた。

Ⅲ　専門研修の成果

萩原医師は、平成２５年４月から筑波メディカルセンター病院の常勤医師として緩和ケア病棟や外来診療等の専門的な緩和ケアの診療に従事する予定である。その後はさらに在宅医療や緩和ケアチームでの専門的な緩和ケアの経験を積む予定であり、近い将来、日本緩和医療学会認定緩和医療専門医の取得を目指している。

資料1

平成24年　緩和医療科フェローシップ研修プログラム

年間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修内容	筑波メディカルセンター病院緩和医療科研修											

週間

	月	火	水	木	金	土	
午前	病棟 回診	病棟 回診	病棟 回診	病棟 回診	病棟 回診	月1ー2回病棟	
午後	病棟 多職種カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス		
夕		夕方 月2回抄読会					

（財）筑波メディカルセンター